

建築人

2
2018



大阪ホンマもん

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

現在も大阪市の西船場北エリアには大小様々なレトロビルが点在している。その中でもひととき目立つ四ツ橋筋の西側沿いにある「京町ビル」を取り上げたい。

建物は大正一五年（一九二六年）に建てられた。設計は、その後帝塚山学院などの設計担うことになる岡部顕則氏が依頼を受け、建築は安藤組が請負った。

用途は、当初からテナントビルとして計画された。構造は鉄筋コンクリート造で、地下一階・地上五階建てで、台形敷地に沿った形状で計画された。ファザードの特徴は、四ツ橋筋に対して古典的なシンメトリーとなっており、三連アーチ窓による単純な構成とされた。一階部分の壁面は御影石張り、それより上部は茶褐色のタイル張りとなっており、部分的にテラコッタのレリーフが嵌め込まれている。

竣工当初は四階に「清和倶楽部」という社交場があっただけに、今持ってその上質な雰囲気は感じとれる。

建築人

2

2018

目次

2 大阪ホンマもん

3 女性分科会三〇周年リレーエッセイ
建築士会との出会い 野上珠理

4 インフォメーション・事業案内

6 動静レポート

7 Topics

8 Gallery 建築作品紹介

GLP 吹田

設計 竹中工務店(意匠・設備) 構造設計 デロイトトーマツPRS
施工 竹中工務店

兵神装備

設計 徳岡設計 施工

Y.project

設計 楠本菊實/KS ARCHITECTS 施工 花谷建設

11 記憶の建築 松隈 洋

甲南女子大学 一九六四年

気品と肌理の豊かさ漂う白亜の学園

12 建築の射程 小池志保子

郊外を「ほっとかない」取り組みの中で気づいた自由さと面白さ

14 第37回大阪市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞) 入賞作品

18 理事会報告 建築相談室から 編集後記

社会貢献委員会の活動について

社会貢献委員会 業務支援担当
委員長 田中克之



大阪府建築士会では、さまざまな委員会を設け活動を行っております。その中で、社会貢献委員会があり、業務支援・地域支援、二つの分野で活動をしています。

その一つ、業務支援についてですが、建築に関する相談・耐震関連・建物調査(インスペクション)・マンション維持管理・鑑定業務住宅を設計する仲間たちと多岐にわたって活動していますが、そこに属する建築士の資質が問われています。もちろん意欲を以って参加いただいている建築士の皆さんは、積極的に活動されていますが、公益社団法人として、一般の皆様にとってより信頼のいただける立場であることが重要です。さらには、個々のスキルアップを行うことが求められます。委員会としては、さらなる資質の向上に努めていきたいと考えます。そして、建築士の活動をされる建築士の皆様の努力に答えるために、業務につながる活動を行っていくことが求められます。さらに充実した活動を行っていくこと、そしてよりレベルの高い建築士集団にしていけることが必要になってきます。トラブル・クレームの無い建築士集団となるのが社会に貢献できることにつながるのです。信頼と安心を提供できることが必要です。さらには、組織として様々な依頼に対し迅速かつ正確な対応ができる体制を整えることも大切なこととなります。以上の事を、委員会として迅速に確立することが必要となります。

女性分科会三〇周年リレーエッセイ

建築士会との出会い

委員 野上珠理

私は二〇一三年九月より大阪府建築士会の会員となり、女性分科会の仲間に入れていただきました。入会のきっかけは転職先の先輩に誘われたこともありましたが、二月に高知県梶原へ県産材の見学があるとの事でそれに釣られて入ったのが始まりでした。

ちょうどその頃、大規模木造建築の可能性ということが謳われ、県産材の助成金交付など国産木材の流通を促進する動きもあり、木材関係の情報収集をしている最中、県産材の見学は私にとって、とても貴重な体験でした。また女性委員会で活動されてきた先輩委員方との交流の良い機会ともなり、また、以前より気になっていた隈研吾さんの雲の上ホテルに宿泊もできて楽しく有意義な時間となりました。

その後も女性分科会での活動を通じて、高齢者住宅の指針であったり街づくりや防災など女性ならではの視点だからこそ建築に役立つことがたくさんある事を教えていただきました。しかし、何より女性委員の皆さんのディレクション力や采配術などスキルの高さは勿論、タフに生きていくための人間力に多くの事を学ばせて戴いています。

仕事として建築に関わる一方で、建築は生きているからこそ、その行き先や私たちの社会に根ざしたあるべき姿を考える必要があります。建築士会の活動があることで自分自身のバランスがある、といま感じています。今年の全国女性建築士連絡協議会(全建女)の開催地は高知ですが、私と建築士会との始まりの地という事もあり、是非また高知を訪れてみたいと思います。

平成29年度文化遺産総合活用推進事業 「大阪府登録文化財の保存と活用に関する実態調査結果から学ぶこと」 2/24

大阪府内の登録文化財所有者の皆様へアンケート調査を行い、調査結果を基に、文化財の保存と活用、資金調達、再生事業について、議論を深めたいと思います。

日時 2月24日(土) 13:00～16:00
場所 大阪府立中之島図書館3階
大阪市北区中之島1-2-10

受講料 無料
定員 50名

内容

- 第1部 平成28年度の調査結果から学ぶこと(13:00～13:30)
報告者 寺西興一
- 第2部 不動産の小口証券化による文化財等再生事業(13:30～14:30)
講師 桐生幸之介
- 第3部 (一社)古民家再生協会大阪による古民家再生(14:40～15:40)
講師 長井正広
- 第4部 質疑応答(15:40～16:00)

建築士の会 南河内 富田林市寺内町の住宅等見学会 ～横関正人+万貴子氏の作品を巡る～ 3/17 CPD2単位(予定)

横関正人+万貴子氏は、江戸時代以降の町家やまち並みが残る府内唯一の重要伝統的建造物保存地区「富田林市寺内町」において、厳しい制約の下で町家の再生など歴史的町並みと調和した豊かな住まいを実現するクリエイティブな作品を数多く手掛けれ、これらはプロタイプとして当地区のまちづくりに影響を与え、マスターアーキテクトのような存在になっています。横関氏の案内で一連の作品を巡り、地域と建築士のあり方について考察します。

日時 3月17日(土) 13:30～16:00
雨天決行

集合 13:30きらめきファクトリー(近鉄「富田林駅」観光交流施設)
講師 横関正人/NEOGEO(鴛鴦庵(えんおうあん))
見学先 竣工予定住宅、じないまち・木くま館、レイドバック、ギャラリー蔵・天下一、路地のある寺内町の家 ほか(予定)

定員 30名(申込先着順)
申込締切 3月9日(金)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円(当日徴収します。)

※懇親会参加の場合は別途会費が必要です。

女性分科会30周年記念事業 アーカイブ見学会 「三輪山本本社・今井町見学会」 3/20 CPD5単位

時を経て今なお美しさを保ち、伝統技術の革新と発信・受信の時代に対応し続ける三輪山本本社を設計者の竹中工務店日野様に解説いただき見学します。

また、伝統的建造物群保存地区である「今井町」を散策し、国重要文化財の西今家住宅と、恒岡醤油醸造本店も特別見学します。

日時 3月20日(火) 10:00～16:00
(受付9:30)

場所 榊三輪山本本社(奈良県桜井市箸中880)→大神神社→今井町(奈良県橿原市今井町)にて西今家・恒岡醤油醸造本店
講師 日野宏二(榊竹中工務店設計部)
定員 30名(申込先着順)
申込締切 3月9日(金)
参加費 会員2,000円 会員外2,500円
※別途、移動交通費640円・昼食代1,290円が必要

「三重バスツアー」～桑名・六華苑と東海道関宿をめぐる旅～ 4/7 CPD4単位(予定)

ジョサイア・コンドル設計の洋館・六華苑(重要文化財)と、古代三関のひとつ「鈴鹿の関」が置かれていた、関宿を見学します。六華苑(旧諸戸清六郎)では、洋館と共に和館や庭園を見学します。また関宿では、ボランティアガイドと一緒にまち歩きをした後、龜山町嶋村明彦氏にご講演いただきます。

日時 4月7日(土) 7:45～19:00
集合 西梅田大和ハウス工業前集合

時間厳守
定員 40名(申込先着順)
参加費 本会会員(ヘリテージマネージャー育成講座修了者・受講者含む)7,500円 会員外8,500円

※バス代、保険代、入館料、昼食代を含む(事前振込)

本会の催し参加問合せ・申込先

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

平成29年度省エネ等良質な住宅・建築物の取得・改修に関する支援制度等説明会 3/8(大阪会場)

国土交通省では、平成30年度当初予算案・平成30年度税制改正に盛り込まれた新規制度、省エネに関する制度など、良質な住宅の取得・

改修に関する支援制度等の概要について、以下のとおり説明会を開催します。

日時 3月8日(木) 10:00～12:00
会場 グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)

定員 1000名
講師 国土交通省担当官
参加費 無料 事前申込
詳細・申込みは以下のHPをご覧ください。
http://www.mlit.go.jp/report/press/house04_hh_000769.html

第5回大阪市ハウジングデザインシンポジウム 第31回大阪市ハウジングデザイン賞表彰式 2/10

大阪府は、魅力ある良質な都市型集合住宅の供給、既存ストックの有効活用や、良好な維持管理を行う住宅の普及を促進するとともに、広く市民の方々や住宅供給に携わる人々の住宅に対する関心を高めていただくことを目的として、大阪市ハウジングデザイン賞を実施しています。同賞の第31回受賞住宅が決定し、表彰式を行います。

日時 2月10日(土) 13:30～17:00
会場 大阪市立住まい情報センター3階ホール
大阪市北区天神橋6-4-20

表彰式 第31回大阪市ハウジングデザイン賞
受賞住宅の表彰

講演 未来の都市(日本)のあり方リノベーションの関係

講師 内山博文
パネルディスカッション
「住まい・まちの価値をつくる「住み継ぎ」の手法」

パネリスト
内山博文・北村知里・小山隆輝・豊田雅子

定員 100名
参加費 無料

問合せ 住情報プラザ「第5回大阪市ハウジングデザインシンポジウム」係
Tel.06-6242-1160

申込 https://www.sumai-machi-net.com/event/portal/event/33009

中古住宅市場の活性化、空き家の利活用」等の促進を反映したカリキュラムです。

主催 (一社)住宅長期支援センター
日時 2月19日(月) 9:25～16:50
会場 新大阪丸ビル別館4階4-1会議室
大阪市東淀川区東中島1-18-22

定員 75名(先着順)
締切 2月13日(火) 但し、定員に達し次第締切
参加費 27,000円

講習コースのみ 19,000円
問合せ (一社)住宅長期支援センター
Tel.06-6941-8336

http://www.hols.or.jp/

京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学コース 保存再生学特別研究会 近代文化遺産における活用の意味を考える 2/18

建築都市保存再生学コースの過去3年間の取り組みの総括として、オランダよりお招きしたミュルス氏、金野氏や中川教授とともに国外事例や文化財保護法改正の動きも視野に入れながら、歴史遺産の「活用」とはどうあるべきなのかを改めて議論します。

日時 2月18日(日) 13:30～18:00
会場 京都工芸繊維大学60周年記念館2階大セミナー室

定員 90名

入場 無料(申込不要、当日先着順)
講師 ポール・ミュルス(Paul Meurs/STEEN)

HUISMEURS主宰/元オランダ・デルフト工科大学教授)

金野幸雄(一般社団法人ノト代表理事)
中川理(京都工芸繊維大学教授)

問合せ 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
http://www.d-lab.kit.ac.jp/

Facebook:KYOTO Design Lab/
Twitter:@kyotodesignlab

「鋼構造座屈設計指針」改定講習会 (大阪開催) 3/2

座屈現象そのものを今までよりも広い視野で観察し記述された「鋼構造座屈設計指針」の改定版の講習会です。

主催 (一社)日本建築学会構造委員会
鋼構造運営委員会

日時 3月2日(金) 10:30～16:30
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
大阪府中央区泉町2-1-11

定員 150名
受講料 本会会員14,000円(テキスト代金)

テキスト「鋼構造座屈設計指針」
問合せ (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538

http://www.aij.or.jp/

Others

その他のお知らせ

住宅メンテナンス診断士[®]講習会 2/19(大阪会場)

国土交通省の「新たな住生活基本計画」の施策に基づいた「資産として価値のある住宅」に欠かせない、また、空き家に欠かせない「住宅の維持管理、メンテナンス」の講習会です。新築計画段階から居住中の住宅所有者へのアドバイス等、「住宅の点検、維持管理、リフォーム、

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価 等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成29年度建築士定期講習

3/26、3/30 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成26年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程・会場

3/26(月) 大阪国際会議場
定員300名 会場コード5C-06
3/30(金) 大阪府建築健康会館
定員90名 会場コード5C-56

時間 9:25～17:00

申込書必着日 3/26(月)講習:2/19(月)
3/30(金)講習:2/23(金)

※各回定員に達し次第、受付を終了します。

受講料 12,960円(消費税含)

申込書配布・受付場所

大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局
建築技術教育普及センターHPにてWEB申込みも可能となりました。

<https://jaeictkosyu.jp/jaeikikosyu/>

大阪府知事指定講習
平成29年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》
2/9 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習会は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日程 2月9日(金)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
定員 100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

平成29年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)
2/15、3/7 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供します。監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。

日程 2月15日(木)、3月7日(水)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み 9,500円
郵送申込み 10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

建築士法にもとづく建築技術講習会
実務者のための設計・監理契約書講習会
2/16 CPD3単位

建築士法の一部改正に対応するため、四会連合協定建築設計・監理等業務委託契約書類が改正され、新たに小規模向けの契約書類が発行されました。また、四会契約約款の解説書も合わせて改正され、一般向けと小規模向けのそれぞれが平成28年9月に発行されました。この新しい解説書をテキストとして、契約の重要性、約款の内容などを学習することを目的とした講習会を開催いたします。

日時 2月16日(金) 13:15～16:50
会場 大阪府建築士会会議室
定員 60名(定員に達し次第締切)
受講料 会員3,000円
後援団体会員4,000円
上記会員外4,500円
テキスト 一般向け編テキスト4,500円
小規模向け編テキスト2,500円

建築士法にもとづく建築技術講習会
早わかり「省エネモデル建物法」による入力シート作成解説
2/20 CPD2単位

省エネ基準への適合の可否を判断するためには、国立研究開発法人建築研究所HPの詳細計算プログラム「エネルギー消費性能計算プログラム」(標準入力法)と簡易計算プログラム「モデル建物法」のいずれかを用いて計算を行う必要があります。

現在、簡易なモデル建物法が広く一般に用いられるため、同プログラムへの対応・習熟が必要不可欠です。

本講習会は、モデル建物法を用いて、省エネ計算を行う上で必要な建物外皮性能計算のための空調設備データ入力手順、事例を用いてわかりやすく短時間で解説する初心者向け講習です。

日時 2月20日(火) 13:55～16:00
会場 大阪府建築健康会館
定員 120名(定員に達し次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外7,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会
あそび創造広場「TSURUMIこどもホスピス(TCH)」見学
3/16 CPD3単位

あそび創造広場TSURUMIこどもホスピスは、病院や福祉施設ではなく、民間団体等からの寄付金により運営されている、日本初のコミュニティ型こどもホスピスで、本年度の大阪まちなみ賞奨励賞を受賞しました。

見学会では、ホスピスを構想し代表理事を務める高場秀樹様と、設計を担当した出口亮様による解説の後、建物を見学させていただきます。

日時 3月16日(金) 13:30～16:30
会場 あそび創造広場
TSURUMIこどもホスピス
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 会員4,000円
後援団体会員5,000円
上記会員外6,000円

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習2/26 CPD5単位

平成28年6月に宅地建物取引業法の一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に「既存住宅状況調査」の説明が義務付けられます。調査の実施は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められ、新たな建築士業務となりますので、ぜひ受講ください。

<新規講習>
日時 2月26日(月) 10:00～17:50
会場 大阪府建築健康会館
定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,060円
郵送申込21,600円

<申込方法>

日本建築士会連合会HPよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/>

大阪府ヘリテージマネージャー・ステップアップ講座

第1回2/12 CPD4単位(予定)
第2回3/10 CPD3単位(予定)

ヘリテージマネージャーのスキルをステップアップしていただく講座を2回実施します。各回共ヘリテージマネージャー育成講座修了者の受付を優先しますが、ヘリテージマネージャー以外の方も受講可能です。

▼第1回

第1回は、過疎化・少子高齢化により、地域の衰退が懸念されている中、文化財を保護し、活用することが、個性あふれる地域づくりの礎となることが考えられ、文化財を活かしたまちづくりのアイデアを提供する講座です。

日時 2月12日(月・休) 13:30～17:00
場所 大阪府建築士会会議室
内容 地域の持続性に歴史文化を活かす
講師 村上裕道(兵庫県教育委員会参与他)

▼第2回

第2回は、大阪を拠点として活躍した建築家・木子七郎(きごしちろう)の功績に着目して、現存する文化財建築について知識を深めます。木子七郎自邸を調査された山形政昭氏に解説いただきます。

日時 3月10日(土) 13:00～16:00
場所 大阪府建築士会会議室
木子七郎自邸(中央区十二軒町)
内容 座学の後、現地見学会
講師 山形政昭(大阪芸術大学教授)

定員(各回共通) 40名(申込先着順)
受講料(各回共通)
会員、ヘリテージマネージャー1,000円
会員外2,000円(当日徴収します。)

平成29年度文化遺産総合活用推進事業
「文化財の活用を通じて保存を学ぶ」
2/17・3/17

歴史的建造物を会場に設定し、その保存と活用についてお話を伺い、実践的な経験を積むことで、文化財の活用を通じた保存活動ができる力を養います。

少彦名神社では受講の皆様にご書道体験をしていただきます。

日程 ①2月17日(土) 少彦名神社(書道体験)
②3月17日(土) 中之島図書館
時間 各回共13時～16時
場所 上記登録文化財・重要文化財
※開催場所・集合時間は、「参加証」によりご案内します。

定員 各回30名(申込先着順)
※申込みはヘリテージマネージャー受講生優先。
参加費 各回会員2,000円 会員外2,500円

会長動静

- 12/26 大阪府土地収用委員会
- 1/ 4 在阪建築 15 団体新年交礼会
- 1/ 5 日刊建設工業新聞社賀詞交歓会
- 1/ 9 総務企画委員会（連合会）
- 1/11 日本建築材料協会賀詞交歓会
- 1/12 役員候補者選考委員会
- 1/12 運営委員会
- 1/16 大阪府収用委員会
大阪都市景観建築賞表彰式
- 1/17 理事会・正副会長会議
医療センター応急判定説明会
- 1/18 国際委員会・正副会長会議（連合会）
- 1/19 理事会（連合会）
- 1/22 大阪府宅地建物取引業協会式典
- 1/23 大阪府建築士事務所協会新年会
- 1/24 全日本不動産協会役員との懇談会

※連合会：（公社）日本建築士会連合会

運営委員会

30 年度の本会役員候補者を選出

今年5月の定時総会の時点で、本会役員47名の内、21名が2年の任期満了、1名が辞任されるため、次期の新役員候補者を選出する選考委員会を1月12日に開催しました。

委員会では、本会役員としての資質を備えると共に、会員の声を運営に反映できるよう、幅広い建築専門分野から選出すること等を基本に、1期目任期満了者14名の2期目継続と、会長及び各委員会から新たに推薦を受けた9名の正会員を対象に選考しました。

その結果、理事候補者21名、監事候補者1名を選出し、1月度理事会でこれらの候補者を総会に諮ることが承認されました。理事・監事候補者の詳細につきましては、5月の建築人に同封する定時総会議案書で会員の皆様にお知らせします。

運営委員会

坂茂氏

総会の記念講演講師に決定

平成30年5月23日（水）の定時総会の記念講演講師を坂茂氏（坂茂建築設計）にご承諾いただきました。



坂氏は1957年東京生まれで、クーパー・ユニオン建築学部（ニューヨーク）をご卒業され、磯崎新アトリエ勤務後、坂茂建築設計を設立されました。坂氏は、紙管・コンテナなどを利用した建築や災害支援活動で海外でも広く知られますが、ポンピドーセンター・メスをはじめとする美術館、駅舎、学校施設など多くの作品を世界中で手がけられています。また、1996年吉岡賞、2009年日本建築学会賞、2014年には建築分野の国際的な賞であるプリツカー建築賞、2014年フランス芸術文化勲章（コマンドゥール）、2015年朝日賞、2017年紫綬褒章及び日本人初受章となるマザー・テレサ社会正義賞などの数々の賞を受賞され、現在最も活躍している建築家のお一人です。なお、定時総会のご案内は、4月及び5月号の建築人に同封する予定です。



静岡県富士山世界遺産センター（撮影者：平井広行）

建築表彰委員会

大阪まちなみ賞

入選の10作品を表彰

平成29年度大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）の表彰式を1月16日に大阪市天王寺区役所で行いました。

本年度は審査対象60件から、一次審査で12件を選出し、現地審査による二次審査を行い、最終審査を経て入賞作品を決定しました。入賞されたのは、知事賞「ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター」、大阪市長賞「新ダイビル」、審査員特別賞「枚方 T-SITE」、緑化賞「てんしば」、建築サイン・アート賞「太陽工業事務所・太陽工業御陵通給油所」及び奨励賞5作品が受賞されました。

山下府住宅まちづくり部長、田中大阪市副市長から知事・市長の祝辞をいただいた後、本会の岡本会長が加わり表彰状の授与、審査委員長の久近畿大学教授から審査講評がありました。

審査講評等の詳細は本誌14～17ページ、及びホームページをご覧ください。

社会貢献委員会

大阪急性期・総合医療センターの 応急危険度判定説明会

大阪急性期・総合医療センターと昨年9月に締結した「大阪急性期・総合医療センターの応急危険度判定に関する協定」に基づき作成した「判定実施マニュアル」の説明会を1月17日に行いました。説明会には、医療センターの木田施設保全グループリーダー及び災害医療活動担当の西ドクターにご出席いただき、本会は、協力いただける地元の大阪南地域を中心とした大阪市内に在住の47名の判定士の内、20名の判定士が出席されました。判定マニュアルでは、発災後2時間以内に医療センターへ参集し、病院職員と協力して6棟の病院施設の判定活動を行います。特に病棟のある中央館は、12階建て延床面積は約15,000㎡と規模が大きいため、判定には専門性と病院職員との連携とが必要となります。

説明会では能勢建築構造研究所の横田理事から、高層建築物の判定方法を解説いただきました。また、西ドクターから2月17日に医療センターが実施する「災害医療活動訓練」時に併せて、現地において応急危険度判定訓練実施の提案があり、本会判定士も参加することとしました。今後、BCPの観点から医療センターの耐震安全性の確認や判定訓練などを通じ、平時における医療センターとの連携を深める方針です。



説明会の様子

「建築紛争セミナー 2」に参加して

日程：平成 29 年 11 月 22 日（水） 会場：大阪弁護士会館 参加者：120 名（建築士 45 名、弁護士 75 名）



藤原清貴（被災支援分科会委員）

昨年 11 月 22 日（水）に、鑑定業務支援分科会企画の「建築紛争セミナー 2」が、大阪弁護士会館にて開催されました。このセミナーは、大阪府建築士会と大阪弁護士会の共催で、今回のテーマは「追加・変更工事 紛争と解決」でした。追加・変更工事に関する論点整理からはじまり、建物取得時の契約とその内容や裁判実例などが報告されました。パネルディスカッションでは、施主側・業者側の事情やトラブルになる理由や事例、建築士・弁護士それぞれの立場からのお話などが聞け、とても参考になりました。追加変更工事が発生した際には、内容や費用の増減を合意してから工事を進めることがベストだという事は理解できますが、工程に影響することなく手続きを行っていくことは難しいと思います。セミナーでも話が出ていましたが、施主

と施工業者の良好な関係が、トラブルに発展してから実は、追加・変更した工事がある、業者が増額分の支払いを主張してくることもあるようです。私の経験からも工事中は、「サービスです」、「迷惑をかけた代償に無償で対応します」、「中止（又は減少）した工事と差し引きすれば増減はありません」などと説明していたのに、トラブルになったとたんに費用を請求してくるという事例がありました。この場合、施主は「増減がない（無償である）」事も確認・合意し

て記録しておかないといけないという事になれば、施主としても注意が必要です。建築工事では、追加変更工事が存在しないものはないと言っても過言ではないと思います。今回のセミナーを聞いていると、それがトラブルになるかならないかは紙一重で、誰にでも起こりうることだと実感しました。

最後に、個人的には、工事が途中で中断し、紛争になった事例（出来高精算など）も興味があります。

次のセミナーも期待しています。



「西国街道・長岡京歴史散策」に参加して

日程：平成 29 年 11 月 25 日（土） 会場：勝竜寺城跡、恵解山古墳他 参加者：13 名



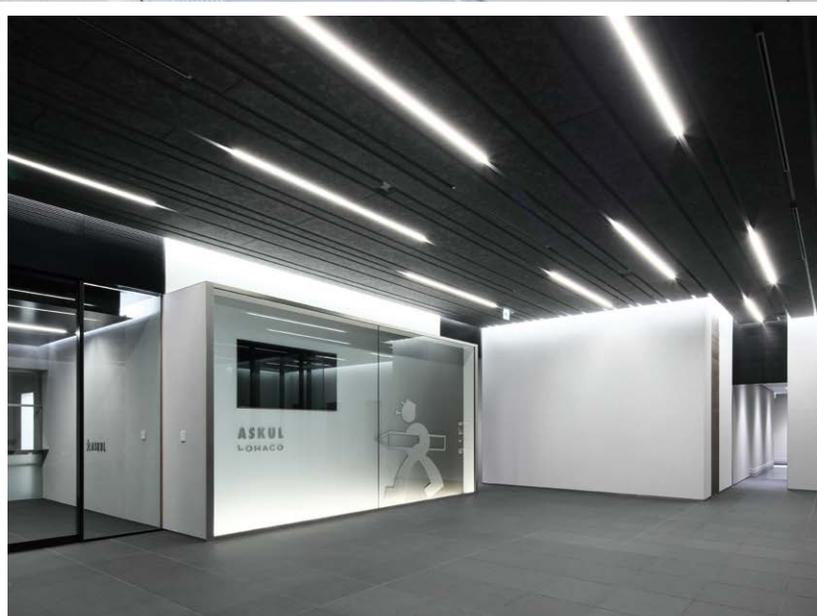
神保 勲（地域分科会委員）

建築士の会「北河内」と「みしま野」が協同企画した「西国街道・長岡京歴史散策」に参加しました。当日は小春日和の中、旧長岡京を中心としたエリアを散策しました。因みに JR 長岡京駅は 1995 年（平成 7 年）に旧「神足駅（こうたりえき）」を改称した駅です。旧駅名の「神足」と言う名前が冠せられた神社「神足神社」に向かいました。当神社は、「延喜式」にも名前を列せられた式内社です。創建などの由来は不明瞭ですが、静かな境内に立つと、本殿の凛とした佇まいが、神社本来の風格を想起させてくれます。神社を後に、勝竜寺（しょうりゅうじ）城跡に向かいました。敷地内をボランティアガイドが案内してくれました。勝竜寺城は、細川護熙元首相の先祖が築城しました。また、本能寺の変を起こした明智光秀が、山崎の合戦で敗れた後、一次落ち延びたのもこの城

で、明智光秀の三女、後の細川ガラシャである明智玉が細川忠興の元に輿入れした時に入ったのも、この勝竜寺城です。身近な場所で歴史が動いていたと考えれば、感慨深いものがあります。城を後に、西国街道沿いの神足ふれあい町家（旧石田家住宅）、神足石仏群、与市兵衛の墓と呼ばれる供養塔、中野家住宅を見て回りました。住宅は改装されて利活用された町家もあり、早期の修繕が望まれるものもあります。我々建築士が社会貢献できる範疇は、まだまだ際限なくあることを実感しました。そろそろ足も疲れてきた頃、恵解山古墳（いげのやまこふん）に着きました。恵解山古墳は前方後円墳。古墳は整備後、レプリカの埴輪が並べられ、葺石が一部分再現されており、創建当時の土木技術の一端を見られました。最後はサントリー京都ブルワリーへ行きました。麦芽とホップの香りを楽しみな

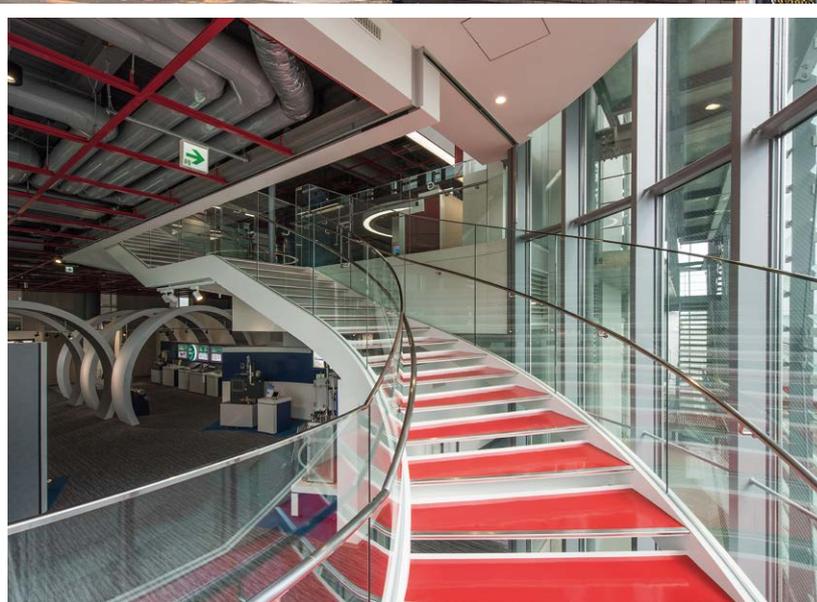
がらのビール工場を見学。工場や設備の規模に驚くと共に、見学通路が生産ラインに被らない様に、しかも見学者にも十分に満足感を与えられる様に整備されていることに感心して、今回の見学会を終えました。





国内最大級の規模を誇る GLP のフラッグシップとして、「次世代型 SMART 物流施設の創造」をコンセプトに、BCP・環境配慮・立地配慮・サステナブル・快適性、これら 5 つのキーワードに基づき、従来の典型的な郊外立地型と異なる、都市立地型物流施設として創り込みを行った。周辺環境との調和・融合や記憶の継承を意図したランドスケープへの取り組み、先進性ある省エネ・省 CO2 技術の導入、フル PC スケルトンの機能美を追求した物流エリア、従業員のアメニティに配慮したインテリア、LEED GOLD や ABINC（いきもの共生事業所認証）の環境認証の取得など、次世代をリードする最先端施設の創造を追求した。（秦 敏彦）

構造設計：デロイトトーマツ PRS
 所在地：大阪府吹田市
 用途：物流倉庫
 竣工：2017.08
 構造規模：PC 免震造 地上 4 階建
 敷地面積：75,064.53㎡
 建築面積：42,803.60㎡
 延床面積：165,235.83㎡
 写真：古川泰造



無脈動・定量移送を実現する回転式一軸ねじポンプを製造するメーカーの創業50周年記念事業の一環として滋賀事業所内に新設された常設展示場である。精密部品からなる製品と環境ISOに取り組む企業にふさわしい精緻な表現、環境建築を目指した。遮光や除雪に効果ある深い庇とダイキャストブラケットを使用したガラスルーバーで水平線を強調する一方、北陸自動車道からのアイストップとしてコーナーにシリンダー状のガラス面を設け企業のアイデンティティを表現した。中層部は産業用途別の製品展示スペースをスパイラルアップする空間で構成し、上層部は執務フロアや応接スペースを配置し、湖北の山並みが展望できる空間とした。冷房は地下水を利用循環させることでZEBへの取組みを進めた。

所在地：滋賀県長浜市
用途：展示場、事務所
竣工：2017.05
構造規模：S造 5階
敷地面積：21,419㎡
(事業所全体)
建築面積：879.24㎡
延床面積：3,239.53㎡
写真：堺谷一志



庭を主体とする平屋の二世帯住宅である。雁行型のプランとしてそれぞれの室が庭に面するように配置した。また中庭、プール、トップライト等のポキャブラリーも多用して機能と快適性を求めている。素材としてのコンクリート、木、石、漆喰により構成されクライアントの希望のイメージに答えた。夫婦共研究職と教職につかれ多忙な日々を送っている中でたまの休日に行くトレッキングで森と温泉宿に癒され、そのイメージで棲家をつくりたいとのことであった。後は森のような庭を、夜ライトアップして室から眺めるのがクライアントの夢である。時を経て棲家と共にゆっくりしていくことになると思う。
 (楠本菊實)

所在地：近畿
 用途：専用住宅
 竣工：2017.05
 構造規模：RC造一部木造
 敷地面積：1,297.23㎡
 建築面積：559.93㎡
 延床面積：479.69㎡
 写真：杉野 圭

抜けるような青空の下、強い陽射しの照りつける二〇一七年八月末、神戸の街を一望に見下ろす六甲山麓の高台に位置する甲南女子大学のキャンパスを訪れる機会があった。村野藤吾が初めて手がけた女子大の校舎群である。竣工したのは一九六四年九月、翌月に東京オリンピックが開催される直前であり、村野は七三歳を迎えていた。

阪急神戸線で大阪の梅田から約二〇分、岡本駅で下車し、五分ほど歩いた専用のバス停からスクールバスで約五分、閑静な住宅地の急な坂道を上ると、視界は一気に開け、鬱蒼とした六甲山の緑を背に広がる階段状の敷地に、整然と配置された白く輝く校舎群が見えてくる。おりしも、東畑建築事務所的设计により、二〇一八年に竣工予定の新校舎一〇号館が建設中であり、奥には工事前のクレーンも見える。今回の訪問は、二〇二〇年に学園創立一〇〇周年を迎えるにあたり、村野の手がけた校舎群を文化財として大切に使い続けるために、京都市芸繊維大学美術工芸資料館に収蔵された設計資料の提供と歴史的評価などについて協力を要請されたことがきっかけだった。

訪れると、女子大としての性格がそうさせるのだろうか。隅々にまで気を配って維持されてきたホテルのような上質のたぐずまいが、みずみずしい気品を湛えていた。そこには、これ以前に村野が断続的に手がけてきた関西大学（一九五一〜七四年）や早稲田大学文学部（一九六〇年）に見られた、タイトル張りを基調とする素材感を全面に打ち出したクラシックな雰囲気とは大きく異なり、中性的、中立的な、抽象化された繊細さとも呼べる新しい質感と空気が流れている。中でも印象的だったのは、急な斜面に設けられた芝生の中庭の存在だ。

校舎を行き来する学生たちの姿が映画の如く、役者のように引き立つ設えが演出されていた。村野は何を求めたのか。竣工時に記した次のような説明文が残されている。

「建物自体としては別段取りたてて変わったところはない。（中略）ただ、少し変わっていると思うのは、建物の内外が徹底して白色となっていること、外部の仕上げがブツケスタックとコテで平行に押さえたような仕上げで荒くなっていること

記憶の建築

松隈 洋

甲南女子大学 1964年
気品と肌理の豊かさ漂う白亜の学園



管理棟2階から中庭と3号館を見る



学生会館から見た前庭と校舎群

いい気風が浮かぶことになれば幸いであると思う。」（『新建築』一九六四年十二月号）
やはり村野は、「女子の学校らしい気風が浮かぶ」ように、周到な方法を新たに持ち込もうとしていたのだ。また、そのことを裏付けるかのように、竣工後に行われたある座談会（『近代建築』一九六四年十一月号）で、村野は、「工費の点」もあり、「とてもタイトルなんか使い切れない……」中で、「女子の学校」ということを考慮して、「初め

ある。このような仕上げ方はこれまでにも似たものがあり、この建物特有というのではないが、壁の表面にあわいシェードを予想してやさしく見せようと意図したことは、できあがって見るとやや設計の目的を達したように思う。白といっても、実際には建設中の土煙が風に吹かれて壁をよごしたので、やや、クリームがかった色になったが、それがかえって、計画的にやったように思われぬこともない。白い校舎と芝の緑との対照といったところに女子の学校ら

普通のかき落としにしようかと思っただけで少し平面的に過ぎる」ので、「ラフな面」にするために、「スタックをぶつつけて上から押えて」という方法を用いたと語っている。さらに、「エール大学のサーリネンのやつたのが印象にあった」と、直接影響を受けた同時代の建築家の名前も明かしていた。その建物とは、エーロ・サーリネン（一九一〇〜六一年）の遺作となったイェール大学の学生寮（一九五八〜六二年）を指すのだろう。外壁は、コンクリートを流し込

む型枠の内側に乱石を積んで、コンクリート打設後に表面を荒らす独自の工夫によって、ラフなテクスチャーが生み出されていた。サーリネンは、この方法について、一九六一年八月に次のように記していた。

「規則性、画一性、標準化、単一部分の繰り返し―近代建築の基本言語ともいうべきこれらのことからは、今われわれが求めている多様性や、個性化とは反対の極にあるのだ。面一の平滑さや、底抜けの明るさ、キラキラするアルミやガラスの輝きでは、われわれが求めている精神は表現できないし、（中略）おそらく、ラフなテクスチャーや、光と陰の戯れ、といったもののなかにあるのだろう。」（『a+u』一九八四年四月臨時増刊号「エーロ・サーリネン」）

村野がこの文章を読んだのかはわからない。しかし、画一化と標準化の中で「多様性」を急速に失いつつあった近代建築を乗り越える新たな方法を模索していたサーリネンの姿勢に、村野は共感し、大きな刺激を受けたに違いない。「光と陰の戯れ」という言葉は、そのまま甲南女子大学で村野が目指したものと重なる。またその方法は、日本ルーテル神学大学（一九六九年）へと確実に受け継がれていく。

幸いにも、甲南女子大学は、村野の没後にも村野事務所が増改築や講堂新築などを担当し、その環境が健全な形で守られてきた。学園創立一〇〇周年の翌年には生誕一三〇年を迎える。時代を超えてその魅力が継承されていくことを願わずにはいられない。

松隈 洋

京都市芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

2017年10月に「ほっとかない郊外～ニュータウンを次世代につなぐ～」という本が出版されました。ニュータウンに限らずこれからのまちづくりの参考になる実践例が紹介されています。この本の著者の一人である小池志保子さんに泉北ニュータウンでの活動やその中で気づいたことについて紹介していただきました。

郊外を「ほっとかない」取り組みの中で気づいた自由さと面白さ

小池 志保子

大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授。一級建築士、博士（工学）。
主な受賞：SDレビュー2009入選、2009年芦原義信賞、2011年ホルシムアワードアジア太平洋地域奨励賞、2011年グッドデザイン賞サステナブルデザイン賞、2014年第8回まちづくり優秀賞ほか。主な著書：『いきている長屋』（共著・OMUP・2013）、『図解ニッポン住宅建築—建築家の空間を読む』（共著・学芸出版社・2008）、『ほっとかない郊外・ニュータウンを次世代につなぐ』（共著・OMUP・2017）ほか
所属する大阪市立大学生活科学研究科では、泉北ニュータウンでの空き家活用や大阪長屋の再生、オープンナガヤ大阪というオープンハウスイベントなどに取り組んでいる。

このたび「ほっとかない郊外」という本をつくった（図1）。この本には、大阪にある泉北ニュータウンを「ほっとかない」ための実践が記録されている。ニュータウンに関わる人たちの個別の想いや行動を書籍で伝えたいということから、この本に登場している人物は六一名で、関わった学生は七八名となった。

本書に書かれている取り組みがはじまったのは二〇一〇年で、それから七年ほど泉北ニュータウンに通って感じたことは、これらの活動には一人のキーパーソンがいるわけではなく、各人の立場から重要な役割を果たしている人たちがいて、その人たちがつながることで取り組みが進んでいるということと、その結果として取り組みに自由さと面白さと力強さ生まれていることだった。

取り組みの現場である泉北ニュータウン（図2）は、一九六五年に開発が始まり、大阪都心部に通勤できる緑豊かな郊外住宅地として人気を集めた。ピーク時の人口は一六万人を超えたが、まち開きから約半世紀を経た現在は高齢化が進み、総住戸のほぼ半分を占める府営住宅の空室率は約一五%に及んでいる。人口減少や少子高齢化、空き家の増加という課題は、泉北ニュータウンに限らず、高度経済成長期に開発された日本全国の郊外住宅地が共通して抱える課題だ。

このような状況をそのまましておくのではなく、「ほっとかない」ことで、ニュータウンの状況を好転させることができるのではないか、そんな想いを持った人々がそれぞれに小さな取り組みをはじめた。「ほっとかない郊外」としての具体的な内容は、食、リハビリ、建築などの専門家と、地域住民、地元NPOら

が連携し、空き家や空き店舗を地域レストラン、高齢者支援住宅、シェアハウスなどにリノベーションしたこと、そして、それらを拠点に場所と人のネットワークを築き、多様な知恵を寄せ合いながら、福祉、食、住まいの課題解決を試みていることである。

ニュータウンで働く

二〇一〇年に自治会を軸とする住人と地域内外の民間組織や大学、行政が協議会を構成し、「泉北ほっとかないネットワーク」と名付けた。このネットワークの中で、地域の空き家や空室を活用した複数拠点を整備し、その後はその拠点を使得って活動を広げている。こちらの活動の詳細については、協議会のメンバーである西上孔雄氏による「建築人」二〇一四年九月号の当連載記事に詳しい。

その後、二〇一五年に戸建て空き家のリノベーションを促進するための「泉北ニュータウン住宅リノベーション協議会」が立ち上がった（写真1）。この協議会では、「泉北スタイル」というライフスタイルをリノベーションで実現しよう、ということを掲げている。ただ、「泉北スタイル」という考え方自体はさまざまな考えを含んでいて、ひとつにまとまっている点はない。ここで特に注目している点は、職住一体居住であり、泉北ニュータウンで働くという点である。ニュータウンはベッドタウンとして建てられ、寝に帰る場所だったが、そこで働くということをキーワードに据えることで、住宅地の新しい魅力が発見できるのではないかと考えている。

泉北ニュータウンの戸建て住宅地では、一〇〇坪前後の敷地の中にゆったり



写真1 泉北ニュータウン住宅リノベーション協議会の会議の様子

とした住宅が建っている。ここは第一種低層住居専用地域だが、そこに働くという要素を入れ込むことで、まちの魅力そのものが変わっていくのではないか。第一種低層住居専用地域では兼用住宅をつくるのが可能で、延床面積の二分の一未満かつ五〇㎡以下であれば店舗や事務所を構えることができる。これを前提としながら、地域に既にさまざまな活動をしている人たちとつながりながら、活動的な暮らしをまちに見えるようにリノベーションしていく、ということを考えている（図3）。

例えば、ニュータウンの計画当初は各団地の中心部にしか商業施設が設けられていなかったが、リノベーションによって住宅地の中にカフェやちよつとしたショップができる、まちを歩く範囲が変わっていく。

泉北ニュータウン



図2 泉北ニュータウンの地図



図1 書籍『ほっとかない 郊外 ニュータウンを次世代につなぐ』(泉北ほっとかない郊外編集委員会(著)、大阪公立大学共同出版会、2017年)

現在も継続的に泉北ニュータウンに関わっている。その中で、強く印象付けられていることがいくつかある。ひとつは、既成の市街地とは異なり、ニュータウンにはしがらみが少なく、全員が活躍できる場があるということである。学生、子育て中の人、会社員、自営業の人、リタイアした人など、性別や世代を越えて、さまざまな人が各自の想いで動いている。そして、先例が少ない分、自分たちで楽しみながら、あったらいい、なれたらいいに取り組んでいること。さらに、公園や自然など外部空間が豊かで住宅が広く、何かを新しくはじめる余地がある。最後は、いろんなことが現場で起こっていて、それを共有しながら次に進めて行くことができる秘訣がオープンな会議の

リノベーションについて学ぶ
一昨年から「リノベ暮らし学校」がスタートした(図4)。この講座では、これから住まいを探している人が、リノベーションで自分の家をつくるにはどうしたらいいかを学べる。開校したときは、どのぐらい参加者が集まるのか、結構心配していた。結果は、「リノベセッション」という言葉自体が一般の方に浸透していることが分り、各回盛況となった。
具体的には、座学に加えて、実物を見ようという事で、泉北ニュータウンの中でリノベーションをした住宅を見学するバスツアーや空き家の見学会を企画し、住まい手や建築家、不動産の専門家と一緒にまちの中を巡った。こちらはすぐ満員になる人気だった(写真2)。
新築ではなくリノベーションで住まいを手に入れようとしている人は、勉強熱心な方が多いという印象を受けた。



図3 戸建て住宅をリノベーションして「コーヒーをテイクアウトできるキッチンをつくら」という大阪市立大学大学院生グループの案

場にあるということ。このような自由で面白い取り組みの中から、近日中午「泉北スタイルの家」で使える住宅ローンが生まれる予定である。



写真2 「リノベ暮らし学校」の空き家ツアーの様子。リノベーション案の模型を展示している。



図4 「リノベ暮らし学校」のちらし

講座名	開催日時	開催場所	講師
リノベ暮らし学校	2018年2月10日(土) 14:00-17:00	大阪市立大学 泉北キャンパス	白根 真樹、松井 貴博
リノベ暮らし学校	2018年2月17日(土) 14:00-17:00	大阪市立大学 泉北キャンパス	木村 吉彦、高橋 秀太郎、朝上 尚也
リノベ暮らし学校	2018年2月24日(土) 14:00-17:00	大阪市立大学 泉北キャンパス	小池 定博子、山口 静子、別府 徳一、山本 裕司

大阪府知事賞 ダイキン工業 テクノロジー・イノベーションセンター



建築位置：摂津市西一津屋 1-1

完成年月：2015年11月

主用途：事務所 研究所

建築主：ダイキン工業(株)

設計者：日建設計・NTT ファシリティーズ設計共同企業体

施工者：(株)竹中工務店(建築) 住友林業緑化(株)(植栽)

撮影者：清水向山建築写真事務所

〈講評〉殺伐となりがちな工業地域にあって、地域景観の質向上に多大な貢献をしている。設備配管や避難階段なども兼ねたスチールパイプで造られた庇を設置し、横に長いファサードに流れを生みだし、近接する淀川・神崎川の流れに呼应させている。また、外構に植樹された1,100本の高木、8,000本の中木が、地域の緑のシンボルとなり、地域住民にも開放されることで憩いの空間を提供している。
(審査委員長 久 隆浩)

大阪市長賞 新ダイビル



建築位置：大阪市北区堂島浜 1-2-1

完成年月：2015年3月

主用途：事務所 商業施設

建築主：ダイビル(株)

設計者：(株)日建設計

施工者：(株)大林組

撮影者：東出清彦写真事務所(有)イーストン

〈講評〉村野藤吾設計による「新ダイビル」(1958年竣工)の建て替え事業である。旧建物にあった1000坪もの屋上樹園を地上に継承し、地域に開かれた豊かな森をつくり出している点がまずもって注目される。生物多様性にも配慮されたこの森は、建物側のパブリックスペースと一体化するとともに、堂島川側にも拡張されることで、街と敷地と建物とを有機的につなぐ。建物では、旧建物のイメージを踏襲する水平を強調した外観デザインが、洗練された都市的ランドスケープを描く。旧建物の記憶と思想を、緑地や外観といったまちとのインターフェイスとして継承、発展させた本事業は、マチュアで高質な大阪の都市景観を牽引するものといえる。
(審査委員 中嶋節子)

審査員特別賞 枚方 T-SITE



建築位置：枚方市岡東町 12-2

完成年月：2016年2月

主用途：商業施設

建築主：(株)ソウ・ツー

設計者：(株)竹中工務店

施工者：竹中工務店・前田組共同企業体

撮影者：中道 淳

〈講評〉T-SITEのサインを建物と一体化したガラス張りのキューブと組み合わせたこの建物は、時の移ろいを映し街を写す。駅へ急ぎ散る人々の足を緩める仕掛けはベンチ回りの植栽や屋上から覗く緑化もその一つです。合理的な駐輪システムで建物の周りや裏側もすっきりしている。駅を通過点だけでなく見易い店内の本棚に手を伸ばし、笑顔と会話がうまれたら、街のリビングとして愛され活用できる事でしょう。
(審査委員 夏原晃子)

第37回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)入賞作品

主催 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会

◆表彰目的 周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。

◆対象 大阪府域内の建物(平成24年8月1日から平成28年7月31日までに完成したもの)及び建物を中心としたまちなみ(平成28年7月31日までに完成したもの)で、一般の方々から推薦を受けたもの。

◆審査委員 ※50音順 審査委員長*

指田孝太郎(建築)
(公社)大阪府建築士会相談役

夏原 見子(デザイン)
美術造形デザイナー

堀 洋(報道)
産経新聞大阪本社編集局社会部長

下村 泰彦(造園)
大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授

久 隆浩*(都市計画)
近畿大学総合社会学部環境・まちづくり系専攻教授

本多 友常(建築)
(一社)日本建築協会副会長/摂南大学理工学部住環境デザイン学科教授

中嶋 節子(建築)
京都大学大学院人間・環境学研究所教授

藤本 英子(芸術)
京都市立芸術大学美術学部デザイン学科教授

◆審査総評

本年の審査対象60件(建物57件、まちなみ3件)から、例年通り審査資料にもとづいた1次審査で12件を選出し、現地審査による2次審査を行った。今年度、大阪府知事賞、大阪市長賞、審査員特別賞、そして緑化賞に選ばれた作品は、いずれも既存建築物や既存空間の改築・改修物件である。人口減少時代に入り、新たなモノをつくる時代から既存のストックを活用する時代へという都市開発のパラダイム転換がここにもあらわれているといえるのではなかろうか。

大阪市長賞を受賞した新ダイビルは、従前、建物の屋上に立派な森をつくっており、中之島という都心部にあって、都市生態系を構築する重要な役割を担ってきた。これを継承するため、今回の建て替えの際には、工事期間中樹木を箕面市で養生し、

改築後は外構空間に移植を行っている。また、旧建物に設置されていた羊のモニュメントも外構に移設され保存されている。大阪府知事賞を受賞したダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンターは、創業地である摂津市の南部、淀川製作所の玄関口につくられている。工業系の土地利用が多いこの地域の景観の質を大きく向上させることに貢献している。とくに、「TICの森」と呼ばれる森には、高木1,100本、中木8,000本が植えられ、地域住民にも開放されるなど、地域の緑のシンボルとなっている。審査員特別賞を受賞した枚方T-SITEは、近鉄百貨店を核店舗とした再開発ビルのリノベーションである。商品陳列のために閉鎖した壁面になりがちな商業施設にあって、全面ガラスのファサードにするなど大胆なデザイン変更を行って

おり、駅前の景観を大きく変貌させた。キューブ状に張り出した複数のテラスが未来志向の景観を創り出している。緑化賞を受賞したてんしばは、天王寺公園のエントランス部分の改修である。つくられた店舗群が天王寺駅前ににぎわいを巧く公園へと誘ってくれる。

改築・改修の際には、既存空間の特性を継承し、さらに新たな価値を付加する作業が求められるが、受賞した作品はそれを巧く行っていた。こうした作品がこれからも増え、大阪のまちなみが向上していくことを期待したい。



審査委員長 久 隆浩

審査風景



奨励賞 帝塚山地域における住宅群



建築位置：大阪市住吉区・阿倍野区帝塚山周辺
 完成年月：2011年9月・12月 2012年3月 2013年3月・11月
 主用途：一戸建て住宅
 建築主：F・Y邸 F・M邸 O邸 N邸 S邸
 設計者：(株)Y's design 建築設計室
 施工者：(株)ケイ・アイ・エス (株)新建築総合
 撮影者：平井美行 (1段目左右) 母倉知樹 (2段目左・中)
 Stirling Elmendorf (2段目右)
 (スターリン エルメンドルフ)

〈講評〉明治大正からの趣を残す「帝塚山」で、設計事務所設立から20年の間に50件近い住宅を作り続けていることにまず驚いた。クライアントの信頼が厚い証であろう。審査対象の5件はどれも素材感を生かした端正なデザインで、小さいながらも通りに対して緑を配し、お隣の視線プライバシーにもきめ細やかな配慮がある。丁寧に地道なひとつひとつの積み重ねが、まちなみの景観向上に寄与していることを高く評価したい。(審査委員 指田孝太郎)

奨励賞 市立吹田サッカースタジアム



建築位置：吹田市千里万博公園3-3 完成年月：2015年9月
 主用途：観覧場
 建築主：スタジアム建設募金団体(発注者) 吹田市(所有者)
 設計者：(株)竹中工務店 施工者：(株)竹中工務店 撮影者：野口兼史

〈講評〉高速道路への導入路が本線に合流する直前に、みどりに囲まれた金属片に包まれたスタジアムが忽然と立ち現れる。道路線形が生み出す遠心力による動的な身体感覚と建築がポジティブに出会う稀有な事例であり、新たな現代的都市空間が生みだされている。(審査委員 本多友常)

奨励賞 アース環境サービス(株) 彩都総合研究所T-CUBE



建築位置：茨木市彩都あさぎ7-1 完成年月：2015年10月
 主用途：研究所
 建築主：アース環境サービス(株)
 設計者：大成建設(株) 施工者：大成建設(株) 撮影者：宮本真治

〈講評〉国際文化公園都市のシンボルゾーンの顔として、駅前から視認性の高い緑の丘の上に佇む。とくく無表情になりやすい研究施設だが、室内の鮮やかな色彩がガラス越しにその表情を見せ、赤色がシンボリックなアクセントとして、外部の景観にその魅力を見せる。夜の演出はなお見事だ。(審査委員 藤本英子)

審査風景



緑化賞 てんしば



建築位置：大阪市天王寺区茶臼山町 115-1 の一部

完成年月：2015 年 11 月

主用途：商業施設

建築主：近鉄不動産(株)

設計者：(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

撮影者：母倉知樹

〈講評〉自然的な雰囲気や潤いの供給のみならず、賑わい性といった新たな都市公園のあり方が提案されている施設である。エントランス部分は、分散配置されたカフェやレストランが都市空間と公園空間とを結ぶ「つなぎ」空間となっている。西に広がる 7000㎡にも及ぶ広大な芝生広場は、すり鉢上に緩やかな傾斜を持たせることにより、従前のサンクンガーデンのイメージが継承されるとともに、超高層のハルカスを視認できる重要な引き空間としての役割も果たしている。
(審査委員 下村泰彦)

建築サイン・アート賞 太陽工業事務所・太陽工業御陵通給油所



建築位置：堺市堺区三条通 1-2

完成年月：2016 年 2 月

主用途：事務所 給油所

建築主：太陽工業(株)

設計者：(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

撮影者：母倉知樹

〈講評〉仁徳天皇陵にも近く住宅街に隣接するガソリンスタンドとして、特別な施主の想いが実現している好事例である。財団事務所との一体計画として、オフホワイトの外壁に、力強く段違いに並ぶ 4つの鉄板格子庇があり、その一つだけがブルーの色を持ち、そこに店のロゴが入る。低めのポール看板と足元のサインだけで、十分ガソリンスタンドのブランドは確認出来る。夜間照明も高輝度を避ける計画で、低木ながら緑化の効果も高い。スタンド業界のサインのあり方に、新たな布石となれば幸いだ。
(審査委員 藤本英子)

奨励賞 あそび創造広場 TSURUMIこどもホスピス



建築位置：大阪市鶴見区浜 1-1-77

完成年月：2015 年 12 月

主用途：児童福祉施設等 (コミュニティ型こどもホスピス)

建築主：(一社)こどものホスピスプロジェクト

設計者：大成建設(株)

施工者：大成建設(株)

撮影者：新建築社写真部

〈講評〉三角屋根の建物がリズムカルに弧を描いて並ぶ外観は、視線を捉える効果がある。施設は難病の子供たちと家族が過ごす場所としてデザインされた。設計者は病院と自宅しか知らない子供の暮らしを地域社会と交差させる仕掛けを考えた。その答えが、周辺で暮らす人の目を吸い寄せる建築と、あえて未完成にした庭だ。この野心的な企みは成功している。
(審査委員 堀 洋)

奨励賞 イオンモール堺鉄砲町



建築位置：堺市堺区鉄砲町 1

完成年月：2016 年 2 月

主用途：商業施設

建築主：イオンモール(株)

設計者：(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

撮影者：古川泰造

〈講評〉七道駅側モールでは、稲荷神社や赤レンガ建築が保全され、せせらぎや季節感のあるふるさとの森が地域の文化的・自然的景観の保全・創出に寄与し、国道 26 号側では駐車場緑化、壁面緑化が施され、都市レベルでの自然的景観の創出に寄与している。
(審査委員 下村泰彦)

理事会報告

文責 本会事務局

日時 一月十七日(水) 十六時〜十八時

場所 本会会議室

出席 理事二九名 監事一名

(1) 一月の当期経常増減額は、収入一三、七二〇、四二二円、支出一五、二一七、二三八円、差引△一、五〇六、八一六円で、本年度累計の収支差引二〇、五五九、三〇九円を報告して承認されました。

本年度の収支決算は約一五〇万円の黒字決算になる見込みです。会費収入は予算収入定員に達しました。研修活動では、定期講習は今後四回の講習会で七割の受講が見込めるとして約八〇万円の対予算増。耐震診断改修講習及び監理技術者講習は大幅な受講者減少により減収傾向です。事業活動では、大阪市高齢者住宅改修費給付事業の審査業務は、審査件数が予定の二〇〇程度ですが二〇万円程度の黒字になる見込みです。建築情報活動では、建築人のギヤラリー及びDMが増加しており、約八〇万円の増収を見込んでいます。社会貢献活動では、既存住宅状況調査技術者講習の収支差額が予算額を約二九〇万円上回り好調です。

(2) 二〇年度の総会において承認される役員候補者の選考を行いました。

一期末任期を満了する理事一三名及び監事一名には、二期末の留任を依頼します。二期末以上の任期を満了する理事七名及び二九三〇年度任期中の辞任理事一名の計八名が退任しますが、会長及び委員会から推薦を受けた新たな候補者から七名、二期末満了の理事一名に三期末を依頼することによって計八名の新任理事候補者を選定しました。以上の選考結果を理事会で報告し、五月の定時総会に諮ることが承認されました。

建築相談室から二十二

回答に困る相談

文 橋本頼幸

電話相談では技術的な相談に限らずトラブルや疑問など様々な相談が寄せられます。その中でも、相談の仕方が悪いのか、相談の自身自体がそもそも怪しいのか、答えに困る相談というのの少なからずあります。

マンションの室内のじゅうたん畳の部屋をフローリングに変えるリフォームをした。業者からは管理組合の決まりでL40等級のものを使わないといけないので、多少ふわふわするといわれていたが、実際にできると思った以上にふわふわする。場所によってふわふわする具合も異なり施工不良ではないか？業者からはどうしてもだめならじゅうたん畳に戻すしか無いと言われているが、その場合の費用はこちらで負担しないといけないのか？

誰の責任？

L40仕様のフローリングがふわふわすること建築関係者であれば皆知っていますし、マンションのルールでそうなっていることも理解できると思います。同じ室内でも場所によって沈み込む量が異なるのも説明ができますので、直ちに施工不良とは言い切れないでしょう。業者の説明不足なのか、相談者の理解不足なのか、電話では判断できませんし、有料の現地相談を使つて費用に見合った効果が出る案件でもないでしょう。結果「ADRに相談する方法もあります」という相談記録になっていました。

相談事項に関連性があるのか無いのか

キッチンカウンターに亀裂が入った。六年目なので保証期間外といわれた。アルミサッシの中央がたわんでいるといわれ、建具が外せず電化

製品を搬入できなかった。

相談というより・・・

一人の相談者の同一相談ですが、相談というより愚痴のようになっていきます。六年経ったキッチンカウンターの亀裂は直ちに施工の問題を疑うものではありませんし、窓サッシの中央がたわんでいること因果関係がわかりません。サッシの中央がたわんで建具が外せない程度だと窓の開け閉めができないように思われますし、家電を入れようとする窓であればそれなりに大きな窓でしょうから生活に支障が発生していたと思われまます。担当相談者は真摯に回答されましたが、着地点が見えない相談の一つです。

夜になると知らない人が家へ入ってくる

夜になると知らない人が入ってきて二階へく。私は何かで毎日監視されている。警察に連絡をしても来てくれない。家の中に他人が入らないように工事をしたい。

意外と少なくないこの手の相談

この手の明らかにおかしい相談も意外とあります。いつも誰かにつけられて、狙われている。一階と二階の間に住んでいる人がいる。などの相談は昔から時々あります。この手の相談者にもある程度話を聞いた上で適当なところで電話を切るタイミングを図るしかありません。相談記録では「他人が住んでいるのは問題なので警察に相談してください。我々建築士では対応できません。屋根に登って入ってきているようであれば工事業者に入れないように工事を依頼してください」と回答しているようでした。

ある程度聞いてあげるほかない

回答に困る相談でもある程度聞いてあげるほかない、ときには技術的な相談をする立場ではなく、井戸端会議や単なる茶飲み友達のような感じになる場合が少なくありません。

編集後記

黒川祐樹

雑誌やweb等で様々な分野における一

〇年後、二〇年後の社会の変化と予測についての記事をよく目にします。その社会変化の事例として上げられるものは、グローバル化の進展に伴う効率化や利便性の向上、少子化や超高齢化による社会的課題、ICTやAI、ロボット化等の技術革新、シェアリングエコノミーやソーシャルビジネス等の新たな経済活動の在り方等、枚挙にいとまがありません。一方、資本主義の終焉や脱成長社会、循環型社会等これからの社会の在り方についても多く語られています。このような社会の変化の中で建築士の役割はどのように変わっていくべき、もしくは変わらざるに在るべきでしょうか。

建築や都市のハード面のみで解決できる問題はどうしても限られます。私自身も考え始めたばかりでまだ答えを持ちあわせておりませんが、事業の川上部分での多様な分野の方々の協働が欠かせなくなり、その関係の中で建築士の果たすべき役割もその都度変わるのではないかと想像します。皆様はどのようにお考えでしょうか？

建築人 2018

監修	公益社団法人大阪府建築士会
	建築情報委員会
編集	建築情報委員会『建築人』編集部
委員長	飯田英二
編集人代表	荒木公樹
編集人	河合哲夫 北 聖志
	黒川祐樹 曾我部千鶴美
	橋本頼幸 丸子勇人
	牧野隆義 茂籠一之
事務局	山本茂樹 母倉政美
印刷	中和印刷紙器株式会社



cye

CYE (サイ)はインダストリアルな要素をシンプルな機能とデザインに再編集したレトロでモダンな水栓シリーズです
www.san-ei-web.co.jp 株式会社 三栄水栓製作所

SANEI



新ダイビル 日建設計

堂島川北岸に位置する旧・新ダイビルの建替え計画。屋上緑化の先駆けである旧ビル屋上樹苑を継承し、ビル足元に厚みある1000坪の緑地「堂島の杜」を計画。旧樹苑からの移植も行い、樹種に彩りを加え、都心に大きな自然の潤いをもたらした。その豊かな緑の景と中之島を望む恵まれた眺望を最大限に取り込みながら、落ち着いた中之島の景観と呼応する、石貼りの大庇が力強く積層する構成を内外に表現した。庇は太陽高度に応じ南北1.8m、東西3.2mの出を持ち、日差しを合理的にカットし空調負荷削減にも大きく寄与する。この庇とアウトフレーム構造・フルハイトガラスの組み合わせにより、オフィスからは堂島川を望むビューが日射に邪魔されずパノラマで広がる。またエレベーターのガラスシャフト化により、コアからの眺望も享受できる360°開放型オフィスとしている。エントランスホールは床・壁・天井仕上げが内外に相互貫入し、緑に包まれた杜の中にいるような空気感で人々を迎え入れる。環境・BCP面での最新スペックを備えながら、光・風・緑に満ちた場の展開と内外の繋がりを強く意識し、知的活動の場として高い快適性を持つオフィスの実現を目指した。

撮影：東出清彦写真事務所 (有)イーストン
第37回大阪都市景観建築賞大阪市長賞受賞作品

■プロフィール

勝山 太郎 (かつやま たろう)
1965年京都府生まれ。
1990年早稲田大学大学院理工学研究
科卒業、1990年日建設計入社。
現在、同社設計部門理事・グループマ
ネージャー・設計部長。

■建物データ

設 計：日建設計
施 工：大林組
所 在 地：大阪市北区堂島浜1-2-1
用 途：事務所・店舗・駐車場
竣 工：2015年3月
構造規模：S・SRC・RC造
敷地面積：8,426.76㎡
建築面積：3,084.38㎡
延床面積：77,388.49㎡

